

【事業計画】

地域包括ケアシステムの構築に向けて関係機関・団体等の連携を推進するための方策の関する意見交換・情報共有等を行う。

令和2年度 テーマ「医療と福祉の連携について」

- ①支援者のためのガイドマップ～精神科医療編～の作成
- ②医療と福祉等の関係者によるネットワークづくり

【活動実績】**(1) 会議開催状況****(ア) 全体会 年に2回(7月・1月)開催**

- 令和元年の7月に開始し、令和2年1月に全体会を開催し事業報告を行う。
- 令和2年7月の第1回全体会は新型コロナウイルス感染予防により中止。
- 令和3年1月に第2回全体会を開催予定。事業報告を行う。

(イ) 部会会議 毎月第2木曜日に開催(全10回・残り7回開催予定)

<進捗について>

- 令和元年8月より、毎月部会会議を開催し、ガイドマップ作成に着手した。
- 新型コロナウイルス感染予防により、令和2年4月～6月まで活動を自粛していたため、大幅に進捗が遅れている。

<支援者のためのガイドマップ～精神科医療編～作成について>

構成の素案

- 障害を有する方のうち、精神科医療を必要とする人に関わる支援者(あらゆる領域の福祉従事者)向けの『支援ガイドマップ』を作成する。
- ICD-10 Fコード(国際疾病分類第10班 精神及び行動の障害)に基づく疾病別に事例を作成。
- 部会会議構成委員をガイドマップ作成チーム、編集チーム、ネットワークチームの3班編成。
- ネットワークチームは、ネットワークづくりの手段としてガイドマップを活用。「お披露目会」(後述)の企画を担当する。
- 事象(事例)→支援者の見立て→(見立ての)根拠→手だて→社会資源の順で読み解き、精神障害の特徴や介入過程の理解を深める
- 精神科関連機関も掲載する

構成の見直し

- ガイドマップを活用対象者として想定した生活支援課1～3年目職員に、素案を一読してもらい、感想・意見をヒヤリングしたところ「複雑な事例は参考にしづらい」「見てすぐに分かるものがない」との声が多数であった。
- 上記、作成チームにて検討を重ね、「まずは手に取ってもらえるもの」を念頭に、目

次やレイアウトを見やすいものとする。構成の素案から、『支援者の苦労（困り感）が報われること』を軸とした構成に見直すこととなった。

- 新たな構成に基づき、ガイドマップの目次を設定
 - 1. 精神科医療機関情報と受診フロー、
 - 2. 医療従事者とのコミュニケーションの取り方
 - 3. 当事者の声と介入のポイント
 - 4. 支援者自身の心身を守る
 - 5. 精神障害の特徴と医療用語集
- 見せ方の工夫（編集チーム主導にて企画・編集）
 - ・ 吹き出しの活用
 - ・ 補足的に事例を盛り込む
 - ・ 支援者が追加情報を書き足せるような欄を設ける

進捗の共有

- 例月各チーム別に集まり作業を進め、部会会議にて各チームの進捗を共有し、次回までの目標及び各チームの取り組み内容及びスケジュールを確認する。

配布

- ガイドマップ完成後、事業報告を行い、配布する。
- 「お披露目会」を開催し、ガイドマップの使い方を説明する場を設ける。
- 多領域の支援者（福祉従事者）を招く。対象はネットワークチーム主導にて検討。
- 地域包括ケアネットワーク構築に向け、ガイドマップをツールにして、支援者間の連携が広がり、支援の幅が広がるようになって欲しい。

（2）障害者の災害対策（啓発活動）

地域生活支援部会にて実施していた啓発活動について、部会会議で継続するか、自立支援協議会での活動を提案するかを議論。

新型コロナウイルス感染予防対策で学校の開放が行われず、再開の目安が当面はないことを鑑み、検討保留となっている。

【評価と課題】

ガイドマップについては、素案の段階でヒヤリングを行ったことで早期に方針を修正できた。まずは、使う支援者が手に取ってもらえるもの、忙しい業務の傍らでも開いてくれることを目指し、内容を精査して作成に取り掛かっている最中である。新型コロナウイルスの影響により、活動自粛期間が生じたことで、完成予定が大幅にずれ込んでしまった。そのため、今後、活動内容のスケジュールの組みなおしを行っていく。総合防災訓練への参加は防災訓練自体の実施状況を鑑み、部会会議で担当するか議論を継続していく。

【計画目標】

- ・ 支援者のためのガイドマップ ～ 精神科医療編 ～ 作成及び配布